

審判員派遣報告書

派遣事業名	第39回全関西中学生 バスケットボール交歓大会	派遣期日	令和3年12月27日
報告者	岩瀬寛明	派遣先	広島県

1 大会概要

大会名称	第39回全関西中学生 バスケットボール交歓大会	大会期間	令和3年12月27日
大会概要	西日本から男女それぞれ約30チームが集まり、予選、決勝リーグを戦う。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年12月27日	会場	広島県立総合体育館
審判クルー	CC: 高橋祐太（兵庫） U1: 岩瀬寛明（香川）		
担当試合	GEM STONE VS 国泰寺中学校		
試合内容	延長戦となった試合。どちらもアウトサイドを中心としたオフェンスで得点を重ねたが、最後はGEM STONEが逃げ切った。		

日程	令和3年12月27日	会場	広島県立総合体育館
審判クルー	CC: 岩瀬寛明（香川） U1: 上田侑平（高知）		
担当試合	RIZINGS 徳島 VS 広島ドラゴンフライズ U14		
試合内容	高さで勝るRIZINGS 徳島が1対1からリズムを作り、勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●プレゼンテーションについて

普段自分が経験する県内大会よりも大きな会場で行われ、なおかつ制限付きではあるが観客が動員されていたこともあり、プレゼンテーションやデリバリーにいつもの工夫が必要であった。まず、普段から声を使うことを意識してはいたが、TO レポートの際、TO クルーが聞き取れないことがあり、声だけでなく大きくはっきりとしたプレゼンテーションが求められた。また、TO クルーだけでなく、コート上の選手やベンチスタッフにも何が起きているのかをはっきりと伝えられるような声の使い方（タイミング、音量）の必要性に改めて気付くことができた。

●クルーワークについて

コロナ禍によって、県外審判員とコートに立つことが久々であった。初めてコート上で一緒にいる審判員、両チームの特徴や情報が分からない中で、どういったPGCが必要となるのかを考えさせられた。まず、基本となるメカニクス、プレーコーリングはもちろんのこと、特殊な状況での処置、ケースへの対応について短い時間で話し合った。その中で大切だと感じたのはプレーコーリングである。JBAから提供されているガイドラインは全審判員共通のもので、判定の基準になるものであり、これをもとに

PGCを進めた。ガイドラインのより深い理解が、それぞれの審判員によって判定がずれることを防ぎ、ゲームでの判定に一貫性をもたらしてくれるものであるとよりいっそう感じた。

●2022 香川 IH、2023 香川全中に向けて

多くの観客がいることや、県外審判員と一緒にコートに立つことはとても久しぶりで、率直な感想としてとても楽しかった。しかし同時に、約2年間そのような場に立てていなかったことで緊張感が高まったことも事実である。来年、再来年と全国大会を控える中で、全国大会規模の会場の雰囲気（多くの観客、大きな会場）を味わうことや、より強度の高いゲームを経験する必要があると感じた。

●審判研修会（講師：神田亮一氏）

○笛の重みについて

審判が1度吹いたものは取り消すことができない（どういう基準、目的で笛を鳴らしているか）。その場を台無しにする笛になっていないかを反省することが大切。例えばファウルの場合、どちらのチームがそれにより有利、不利になるのかを瞬時に判断する。（リーガル VS イリーガル、RSBQ VS フェイク等）「不当にやられているプレイヤーは守られなければならない」という言葉は印象的であった。また、Actual Playing Timeという言葉にもあるように、笛で時間の浪費をしないことも大切。審判員のための時間を極力少なくすることがゲームの価値を高める。

○モチベーションのコントロールについて

審判員として選手を預かっているという覚悟の元、それにふさわしい準備と振り返りをしなければならない。もし自分が選手やベンチに立つコーチだとして、どんな審判に担当してもらいたいかを目標の参考にする。しかし、審判員にはそれぞれの立場もある（仕事、家庭等）。審判員としてやるべきことを決めると同時に、自身の生活の中でやらなくてよいものを決めることも大切。審判員としての心構えが職場での心構えと共通することもあるため、まったく別物として切り離して考える必要はない。

○メカニクスについて

ボールや選手の位置を把握し、何を判定すべきなのかをメカニクスのベースと考える。ベーシックなメカニクスは存在するが、単にそれをやっていけばよいということではなく、状況によって最適なメカニクスは違ってくる。例えば、「ロートレイル」という言葉があるが、何をするために低く位置をとるのか、「ポジションアジャスト」ではアジャストすることで何が見えるのかを理解して実践しなければならない。逆にしてはいけないと言われていることでも、時にそうなることもある。例えば、「ボールウォッチャー」はスムーズなローテーションを妨げるといわれるが、自身のプライマリーエリアでマッチアップがなければ、次の動作への備えとしてそれが必要なこともある。大切なのはゲームで起こりそうなことを感じることである。

4 その他

27日のみの参加ではありましたが、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今回学んだことを振り返り、自身のスキルアップはもちろんのこと、2022 年香川 IH、2023 年香川全中に繋げられるよう努力して参ります。

派遣に際してご理解ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様、ありがとうございました。今回の経験を少しでも香川県に還元できればと思います。引き続きご指導よろしくお願い致します。